

学校システムの転換

懸川 武史

(群馬県総合教育センター)

フィールド

学校教育臨床の領域における、

- 教職員対象の研修
- 学校等での実践研究

が本センターでの業務である。

1 研修・研究の在り方への問い

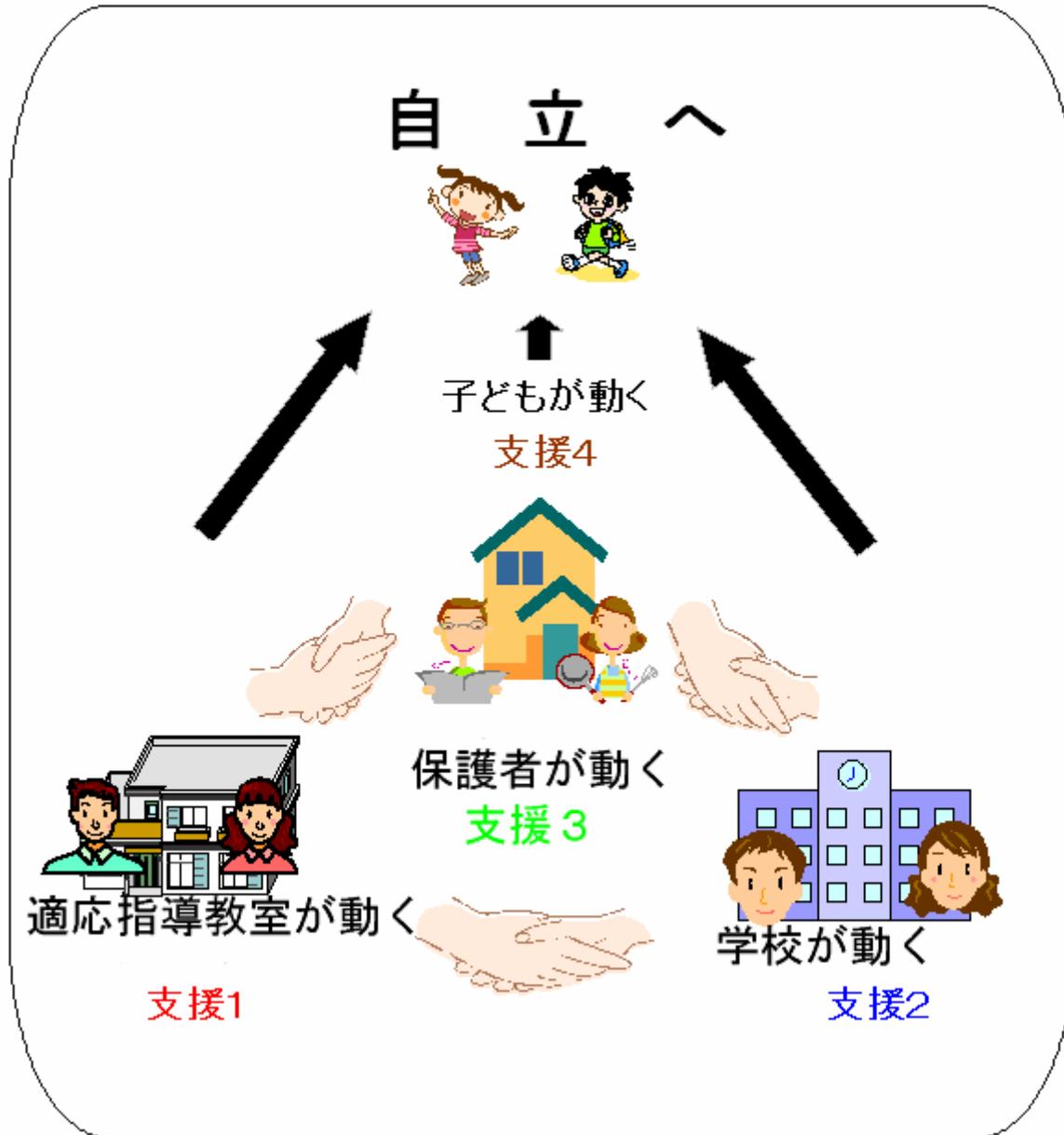
- 研修
- 研究
- フィールドの抱える教育課題の解決過程から、専門家の知恵が財産として蓄積され、モデルの構築が今求められていると考える。

不登校対策総合支援推進事業

学校での教育臨床の実践を支援し、不登校問題の解決を通してモデルの構築を試みている。

学校内のシステム転換、教師の専門性について提言を行う。

支援

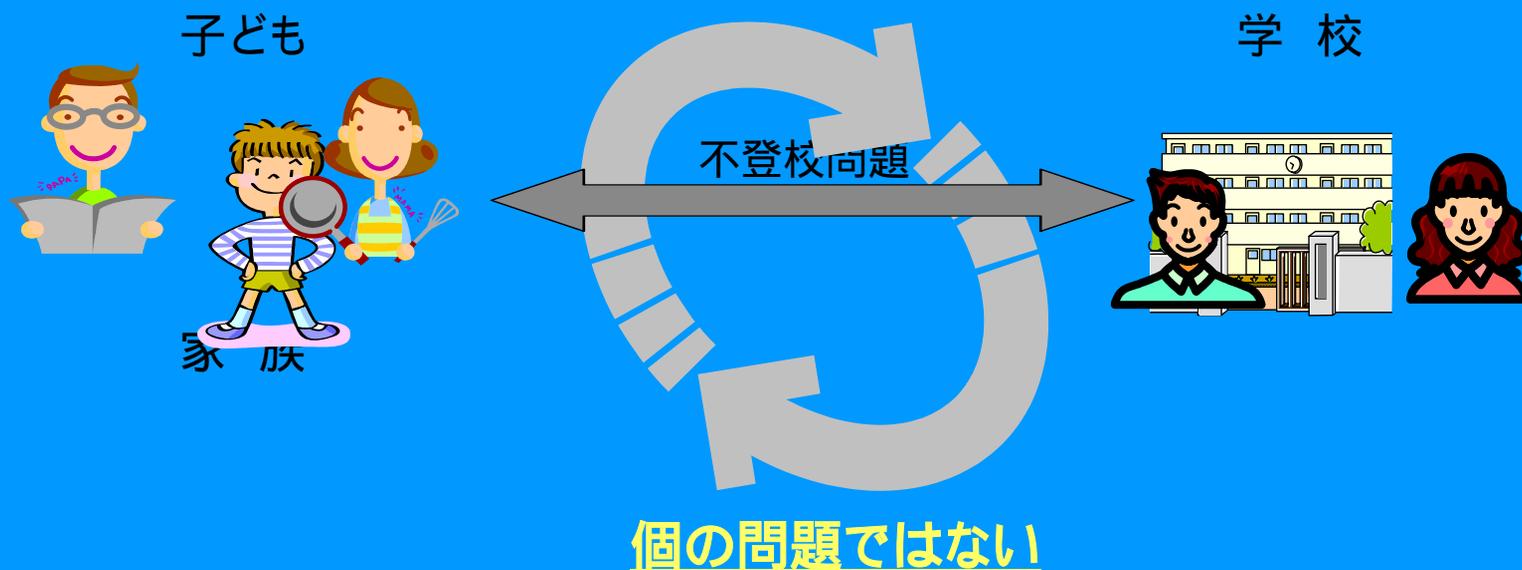


支援1 適応指導教室での「学校復帰プログラム」の研究開発（4教室）

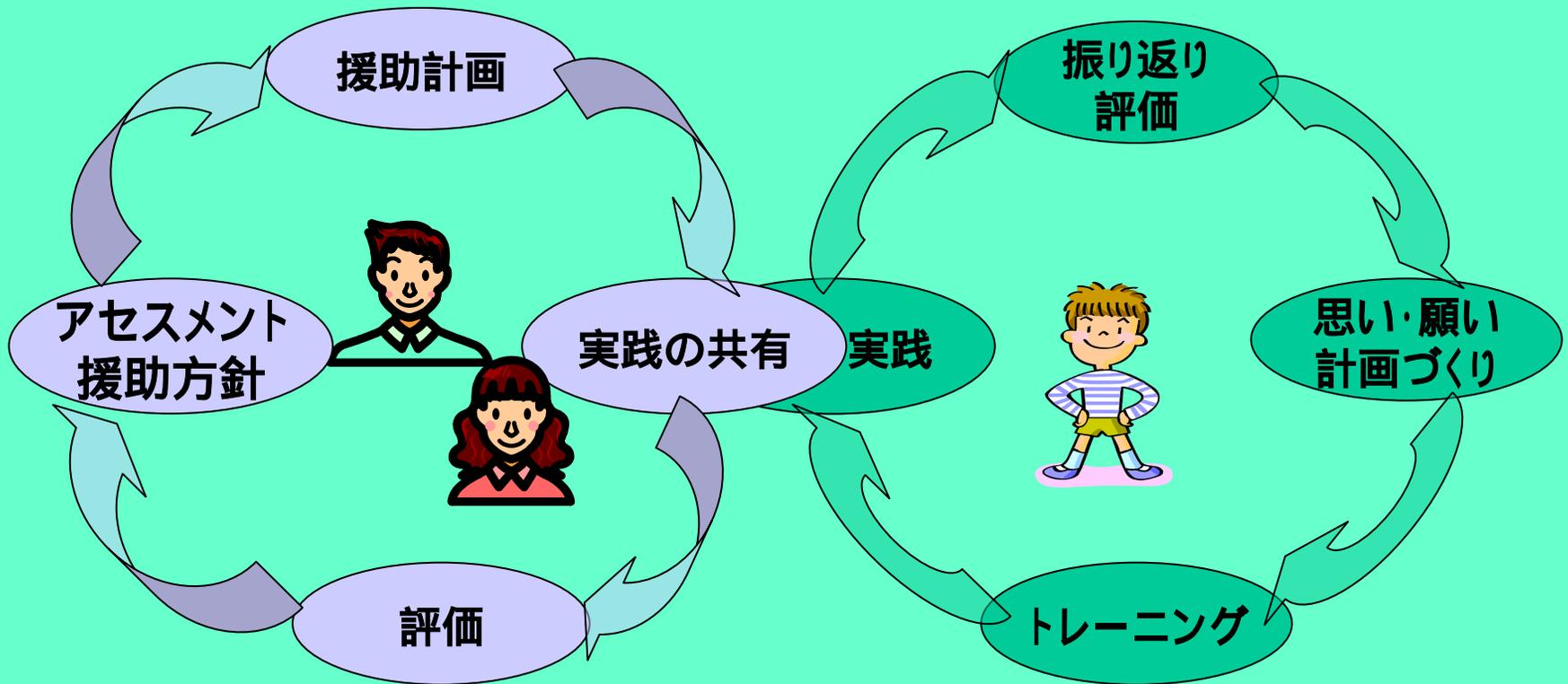
- 渋川市適応指導教室「かけはし」
 - 伊勢崎市「適応指導教室」
 - 玉村町適応指導教室「ふれあい教室」
 - 邑楽町適応指導教室「ふれあい教室」
- 教育相談グループ指導主事及び長期研修員が、適応指導教室における実践研究を通して、不登校問題解決のための指導資料「学校復帰プログラム」を作成し、適応指導教室、小・中学校へ配布する。

1 不登校問題は、子ども(家族)と学校との間にある解決すべき共有する問題

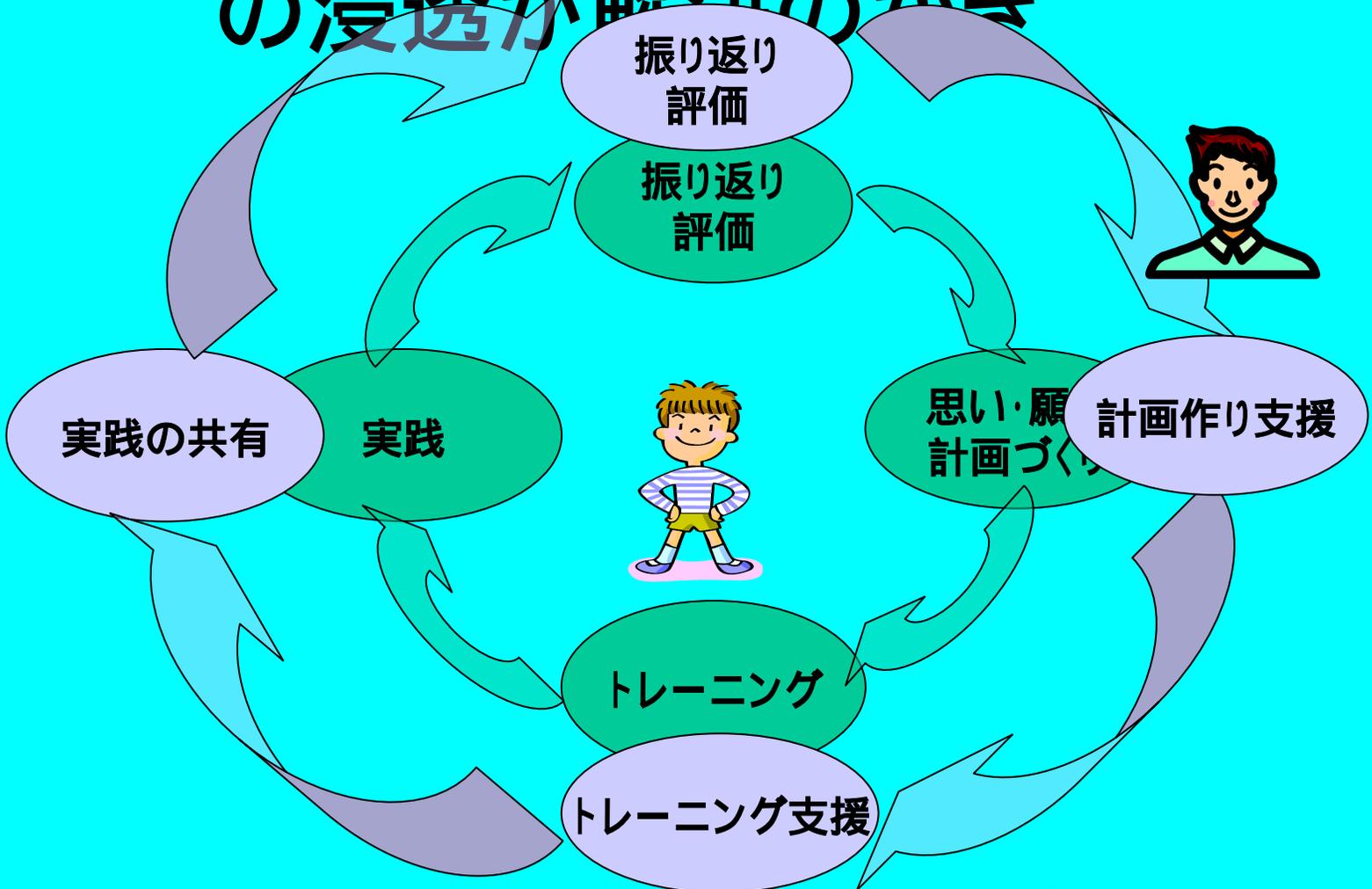
共有する問題解決



2 組織的チーム援助による共有体験をもとにした問題解決の取組が有効



3 円環的な共有問題解決思考 の浸透が解決のかぎ



相互コミュニケーションが展開

支援2 小・中学校での「ほっとルーム」運営による生徒指導、教育相談の実践研究（9校）

渋川市立北小学校 小野上村立小野上中学校 吉井町立西中学校
沼田市立池田小学校 尾島町立尾島中学校 明和町立明和東小学校
新田町立木崎中学校 大泉町立西小学校 大間々町立福岡西小学校

教育相談グループの特別研修員が勤務校において、「ほっとルーム」運営及び援助・指導体制の充実を図り、不登校など生徒指導、教育相談上の課題を解決する。この教育実践から得られた解決モデルは「学校復帰プログラム」の指導資料へ集録する。

「登校を渋りがちな児童の対人関係能力を 高めるプログラムの工夫」

～ほっとルームを拠点としたチーム援助を通して～

- その1 校内に居場所を作ろう
- その2 問題の解決には、チームを組んで援助しよう
- その3 基礎学力を付けよう
- その4 リレーション作りは意図的に取り組もう

援助チームからの
はたらきかけ

個から集団へ
対人関係の
広がり

対

学級集団でエクササイズ

象

具体的スキルの決定とエクササイズの練習

児

コーディネーターとのリレーション作り

フィード
バック

フィード
バック

支援3 「子育て支援プログラム」の開発 (実践研究協力校 1園、各小中1校)

- 館林市立南幼稚園 粕川村立粕川小学校 小野上村立小野上中学校
家庭教育に関するアンケート結果をもとに、保護者の子育てを支援するため研修資料を作成した。このリーフレットを活用した実践を通して、学校不適應にならないための「子育て支援プログラム」を作成し、幼稚園、小・中学校へ配布する。

支援4 不登校児合同体験学習

- 延べ11日間、不登校児童生徒50名参加、指導員37名)
- 春（総合教育センター宿泊棟 1泊2日）
 - 夏（県立北毛青年の家 3泊4日）
 - 秋（県立桐生青少年野外活動センター 4泊5日）

県内の適応指導教室等に通級している不登校児童生徒の学校復帰や社会性の向上、及び指導員の指導力向上を図り、対象者が抱える不登校問題の解決を図った。体験学習での実践研究の内容は「学校復帰プログラム」の指導資料へ集録する。

システムの転換

- ベクトルを自己、校内へ
- フィールドからモデル構築
- 校内の教育課題解決(ネットワーク思考)
- 相互コミュニケーションの確立
- 円環的な教育活動の展開

平成16年の支援策

「コーディネーター」の育成

システムの転換による学校風土の評価
構築

不登校実践シンポジウムの開催 平成15年11月21日(金)

- **教員、教育相談員、保護者等161名の参加**
- 指定討論者 東京大学大学院教育学研究科 教授 亀口 憲治氏
- パネリストは、「学校復帰プログラム」を開発している教育相談グループ長期研修員代表、「ほっとルーム」運営による教育実践を推進している教育相談グループ特別研修員代表、及び学校での実践者（群馬町立中央中学校 静野尚子教諭）、不登校体験者（高校生2名）5名により実施した。
- 長期研修員と特別研修員からは、「学校復帰プログラム」及び「ほっとルーム」にかかわる実践研究の中間報告があり、実践者からは不登校生徒への取組について提言があった。さらに高校生からは、不登校の体験談が話された。各内容を参加者と共有し、不登校問題の解決に向け理解を深めた。参加者からのアンケート結果を本事業に反映させ、「ぐんま教育フェスタ2004」での情報発信に向け各支援の充実を図っている。

これらの実践の成果を情報発信する！！

ぐんま教育フェスタ2004 平成16年2月7日(土)

教育相談グループ ワークショップの部

「学校復帰プログラム」の研究開発（3テーマ）
「復帰を目指した学校と適応指導教室との連携について」
「援助・指導充実のための『チーム援助会議』の実際」 「不登校生徒への進路相談」

「ほっとルーム」運営（2テーマ）
「『ほっとルーム』運営による援助・指導の実際」「援助・指導充実のケース会議体験」

「子育て支援プログラム」の開発（1テーマ）
「『子育て支援』研修体験」

高校班 「高校へのアンケート調査結果から見えたもの」